

令和5年度 第1回長野市総合教育会議 議事録（要旨）

1 日 時 令和5年7月4日（火） 午後3時30分～午後4時50分

2 会 場 長野市役所第一庁舎5階 庁議室

3 次 第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議事

①教育支援センター「SaSaLAND」の開設について

②放課後子ども総合プラン事業の新たな担い手「一般財団法人ながのこども財団」について

③ヤングケアラー支援事業について

(4) 閉会

4 出席者

○荻原健司市長

○長野市教育委員会

丸山陽一教育長、近藤守教育長職務代理者、塚田まゆり委員、茅野理恵委員、
鷲澤幸一委員

○オブザーバー

西澤雅樹副市長

○職員

下平企画政策部長、藤澤教育次長、勝野教育次長、臼井保健福祉部長、
島田こども未来部長、鈴木文化スポーツ振興部長、中野秘書課長兼復興対策室長、
北島教育委員会事務局総務課長ほか関係する市長部局及び教育委員会事務局の職員

5 会議要旨

(1) 開会 進行：下平企画政策部長

(2) あいさつ

荻原市長

- ・教育委員の皆様には、本市教育行政に大変お力添えをいただき、お礼申し上げます。
- ・本日は議題が三つある。一つ目は、「SaSaLAND」の開設で、不登校の子どもたちを受け入れる体制が十分ではない中で、七二会で廃校になった校舎を使い、「SaSaLAND」

を進めていきたいと思っている。

- ・二つ目は、「一般財団法人ながのこども財団」を立ち上げた。令和6年度から放課後子ども総合プラン事業を受託することについて、説明させていただく。
- ・三つ目は、子どもが家族の面倒を見るヤングケアラーについて、子どもたちを支えることによって、子どもたちが子どもらしく過ごすために、どんな取組ができるのか、協議いただきたい。
- ・本日は、皆様から忌憚のない意見を頂戴したい。

丸山教育長

- ・今年度第1回目となる総合教育会議を開催いただき、感謝申し上げます。
- ・本年4月、こども家庭庁が設置され、こども基本法が施行された。政府はこどもまんなか社会の実現に向け、こども大綱を現在策定中だが、我々としましても政府の動きを注視して、施策の実現に向けて庁内関係部局の連携をより一層強化してまいりたい。
- ・本日の議題である「SaSaLAND」の開設については、「子どもが安心を実感できる居場所」、これをコンセプトに掲げ、学校へ行きにくくなっていたり、学校以外の安心できる居場所に繋がっていなかったりする児童生徒に対して、社会的自立に向けた支援を行うとともに、保護者支援や教員等の不登校に関わる研修の充実、これらを目的として現在鋭意準備を進めている。
- ・本日は長野市の現状や課題を共有させていただき、子どもたちの居場所づくりに向けた、今後のあり方など皆様の意見を頂戴し、参考とさせていただき、これからの支援の充実につなげてまいりたい。

(3) 議事

①教育支援センター「SaSaLAND」の開設について

- ・勝野教育次長から資料1に基づき説明

【意見交換】

(委員) 言葉の問題だが、通所生という呼び方を今後、続けていくのか。

(勝野教育次長) SaSa サポーターミーティング等でいろいろ意見を聴きながら、開所までには子どもたちもワクワクする馴染みの深いものにしたいと考えている。

(委員) 子どもたちが安心を実感できる居場所を実現させるということを考えたときに、安心を実感させることのできる環境を作れる大人の存在や携わるスタッフがいかに研修を積んで、共通の理念で進んでいけるかがものすごく重要になってくると

思う。子どもへの支援、教育、福祉という専門性を持った方を配置していただきたいと思う。さらに、この「SaSaLAND」の理念に合わせて開設までに十分な研修時間を取ってほしい。

(勝野教育次長) スタッフについては、令和元年の文部科学省の通知に、「教育支援センター整備指針」というものがあり、指導体制について何項目か書かれているので、それに準じた形でスタッフを準備していきたいと考えている。私たちも、専門性の高い方に来ていただければ非常にありがたいと思っている。

(委員) スタッフを見つけるのは、なかなか大変だと思う。子どもたちと一緒に学び、新たな安心や安全な居場所といったものを作り上げていく意欲のある方、志を持った方を選んでいただければと思う。

(委員) 令和6年4月にスタートということで、スピード感を持って、人選をしていかなければならない状況だと思っている。早め早めにどんな人が必要なのか、話し合いを重ねて、理念を統一していくことが大事なので、スピード感が欲しいと感じた。

(委員) お子さんに柔軟に対応できる人を早めに集めて欲しいと思う。

(勝野教育次長) ぜひ反映できるように頑張りたいと思っている。

(委員) 保護者の皆さんの多くは、進学のことをかなり気にされる。進路や将来のことへの視点も取り入れていただければと思う。

(勝野教育次長) 建設業、農業、林業関係者の方に「SaSaLAND」へ来ていただいて、子どもたちに色々な話や声をかけていただくことを考えている。

(市長) 「SaSaLAND」に来る子どもたちは、市内の小中学校に在籍をしていて、いわゆる通所という形になり、実際には行くべき学校があるということなのか。

(勝野教育次長) 籍は現在の学校になる。

(市長) 本来行くべき学校や担任の先生と、例えば「SaSaLAND」での過ごし方について、情報交換することはあるのか。

(勝野教育次長) 学校との連携を図るという役割もスタッフの中でどう位置付けをしていくかは検討している。大事なのは学校との連携だと考えている。

(市長) 親の心配ということが強いと思う。うちの子は「SaSaLAND」で大丈夫なのかと思う保護者が仮に出てきた場合に、どうアドバイスするのか、あるいはどう安心感を持っていただけるのか、難しさはあると思う。例えば「SaSaLAND」として、考え方や方向性は常に一致しておく必要があるし、お父さん、お母さんに大丈夫ですよ、信念を持って、言い切れること。私としては、子どもたちが安心を実感できる場所であることに加えて、ここで子どもたちの姿から我々大人が学ぶ、教えられる立場にあるのではないかと思う。現代に生きる子どもたちを見ながら、何か我々自身が学んでいきたい、そういう場所にしていきたいと思う。

(教育長) スタッフ、保護者の皆さんや先生の認識も新たにさせていただくことが大事だと思う。これは、(川崎市の) 夢パークへ行った時に所長さんから、保護者の認識を改める必要があるとの話があった。運営をスムーズにやっていくためには、保護者の理解やスタッフについても、市長が言ったように、子どもから何かを教えらるるといったスタンスで、取り掛かってもらわないと、うまくいかないと思う。

それから、スタッフ、保護者や先生、皆さんの認識を共通の意識に持っていくというのが非常に大事だと感じた。

②放課後子ども総合プラン事業の新たな担い手「一般財団法人ながのこども財団」について

・島田こども未来部長から資料2に基づき説明

【意見交換】

(委員) 全ての学童保育の現場を回った時に、サービスとスタッフのばらつきがものすごくあった。やっとならと総括して、サービスやスタッフのばらつきなく、運営していただけることがすごく嬉しい。先ほど説明があった「SaSaLAND」にも言えることであるが、一つ欠けていることとして、危機管理について何にも触れられていない。サービスを維持・向上できる運営体制としての取組内容に危機管理の部分は、入れた方がいいと思う。

(こども未来部長) 確かに安全・安心と言っておきながら一番大事な視点だと思う。今後、こども財団でしっかりうたっていきたい。

(委員) こういう体制を作っていただいたのは良いが、保護者の皆さんと財団で一緒に考

えて、財団だけで運営していくのではなく、保護者の皆さんも考えながら一緒に参画していくんだという雰囲気、機会を作っていただきたい。

(こども未来部長) ありがたいお話をいただいたと思っている。

(委員) 10年間ぐらい既にやってきて、登録者が46.5%、登録していない子も半分いる中で、登録していない子と登録している子の中でトラブルはあったのか。登録している子と登録していない子でどうなっているのか。

また、運営費はどのくらいになると試算しているのか。

(こども政策課長) 登録者と未登録者の児童のトラブルは、現場で子どもたちに差をつけて対応しているということはないので、トラブルはない。まして、登録児童と未登録児童の利用時間も全く一緒に、現場では、一人一人の児童として支援の提供をしている。

(こども未来部長) まだ、試算していないが、今年度は約12億円で、それよりは若干増えていくのではないかと見込んでいる。

(委員) 子どもの姿、育ちをいかに共有し、成長の姿というのを一緒に喜んだりできるかというところにかかってくると感じている。スタッフの後方支援というような言葉も入っているが、さらにスタッフ同士が子どもを理解していくために、十分な情報共有と時間の確保が大事だと思う。

(こども未来部長) 支援員やスタッフの関わり方は本当に大事だと思っている。これから研修等も増えていくと思うが、委員の話も踏まえていきたいと思っている。

③ヤングケアラー支援事業について

・島田こども未来部長から資料3-1、3-2に基づき説明

【意見交換】

(委員) しっかりとした体制を作ってください感謝する。発見する機会が増えてきて、大変良いことだと思う。家庭で隠されてしまうとなかなか表に出てこないのはいいか。是非、社会が助ける仕組みを持っていることをできるだけ早く周知していただきたい。

(こども未来部長) どうやってヤングケアラーを把握していくかということが今後の私

どもの一つの大きなミッションだと思っている。本年度、支援員を2名配置したので、相談できる場所があることを含めて、広く周知していきたいと考えている。

(委員) ヤングケアラーという状況にある子どもたちをいかにスクリーニングして支援していくかということが大事だと思っている。スクリーニングする側の感度を上げていくための取組ということも大事になってくるとしている。

また、もちろん中高生向けの認知度向上の研修会も大事だと思うが、子どもは解決できないことは、人に迷惑をかけることだと思って相談しないこともある。解決できないから相談しないではなく、いくらでも話を聞くし、一緒に考えるというスタンスを伝えていくことの方が大事だと思う。

(こども未来部長) 学校との連携も非常に重要になるので、そこはしっかり連携してやっていきたいと思っている。

また、子ども一人一人の状況も違うし、場合によってはやっていることが負担ではないと思う子もいると思う。まずは、関係を作って、寄り添っていくところから始めていきたい。

(委員) 先生は、ヤングケアラーを見つけるための勉強をしているのか。

(勝野教育次長) 学校では、ヤングケアラーに限らず、とにかくその子に支援が必要なのかどうかという観点で常に見ている。この子が何に困っているのか、その中の一つにヤングケアラーがあり、ここ数年報道でよく出てきている言葉なので、言葉の理解や定義、研修会もここ数年は行われるようになってきている。支援が必要な子どもかどうかを見抜く、そういう目は大事にしていきたい。

荻原市長 (まとめ)

- ・放課後子ども総合プランのことでは、教育委員会、こども未来部及びこども財団の連携が鍵であると思っている。
- ・子どもの気持ちになってみんなで考えていきたいと思う。
- ・皆さんと一致協力して、子どもたちの環境を良いものにしていきたい。
- ・また、皆さんから忌憚のない意見をいただければありがたい。